

未来のための環境創造企業



エコアクション21

環境活動レポート 初年度 2017.06.1~2017.9.30

Environmental Activity Report

2017

発行日：2017年11月10日



目次 Contents

1	組織の概要	
	1.~8. 事業所名、代表者名、創立、所在地、資本金、 環境管理責任者、事業内容、事業規模	1 page
	9. 認証登録範囲	2 page
	10. 対象組織図	3 page
2	許 認 可	
	1. 収集運搬業	4 page
	1-1. 収集運搬業 積み替え保管場所一覧	5 page
	1-2. 許認可別車輛一覧	6 page
	2. 産業廃棄物処分業	7 page
	2-1. 産業廃棄物処分業保管場所一覧	8 page
	2-2. 産業廃棄物処分フロー図	9 page
	2-3. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物収集運搬・処理の実績（2017年度）	10 page
3	環 境 方 針	11 page
4	環 境 活 動 計 画	12 page
5	環 境 目 標 ・ 実 績	
	5-1. 2017年度目標及び取組み結果（取組み初年度）	13 page
	5-2. 年度別環境目標（中期3か年）	14 page
6	環境活動結果とその評価、 次年度の取り組み内容	15 page 16 page
7	環境関連法規等の順守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	
	7-1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果	17 page
	7-2. 違反・訴訟の有無	18 page
8	代表者による見直しと評価の結果	19 page



1. 組織の概要 *Summary of the organization*

1. 事業所名 環境開発工業株式会社 (かんきょうかいはつこうぎょう)
2. 代表者名 代表取締役 高澤 洋一 (たかさわ よういち)
3. 創 立 昭和51年(1976年)5月19日
4. 所 在 地 北海道北広島市北の里41番地27
5. 資 本 金 4,800万円
6. 環境管理責任者 企画部 部長 佐々木 リサ
【連絡先】 TEL : 011-373-2728 FAX : 011-373-2499
E-Mail : lisa@kklp.co.jp
7. 事業内容 ① 廃油(潤滑油)収集運搬・再生重油製造販売事業
② 産業廃棄物及び収集運搬・処理(リサイクル)事業
③ 一般廃棄物処理(リサイクル)事業
④ 特別産業廃棄物(低濃度PCB含む)収集運搬事業
⑤ 廃OA機器、廃消火器リサイクル事業
⑥ 油漏えい事故対応事業
⑦ 一般貨物自動車運送事業

8. 事業の規模

活動項目		2015年度 2014.10~2015.9	2016年度 2015.10~2016.9	2017年度 2016.10~2017.9
廃 産 業 物	収集運搬量	7,845.2 t	7,813.0 t	7,429.7 t
	中間処理量	4,684.7 t	4,374.8 t	4,433.9 t
廃 一 般 物	処理量	1.4 t	0.6 t	0.6 t
売上高		1,077.6 百万円	1,040.6 百万円	1,003.4 百万円
従業員数		96.0 名	91.0 名	91.0 名
総敷地面積		21,099.6 m ²	21,099.6 m ²	21,099.6 m ²
床面積		3,405.6 m ²	3,976.5 m ²	3,976.5 m ²



9. 認証登録範囲 登録組織名 環境開発工業株式会社

認証の範囲

再生重油製造販売事業、

産業廃棄物・特別管理廃棄物の収集運搬業

一般廃棄物・産業廃棄物・特別管理廃棄物の処理（リサイクル）業

油漏洩事故対応事業、一般貨物自動車運送業

◆上空位置図

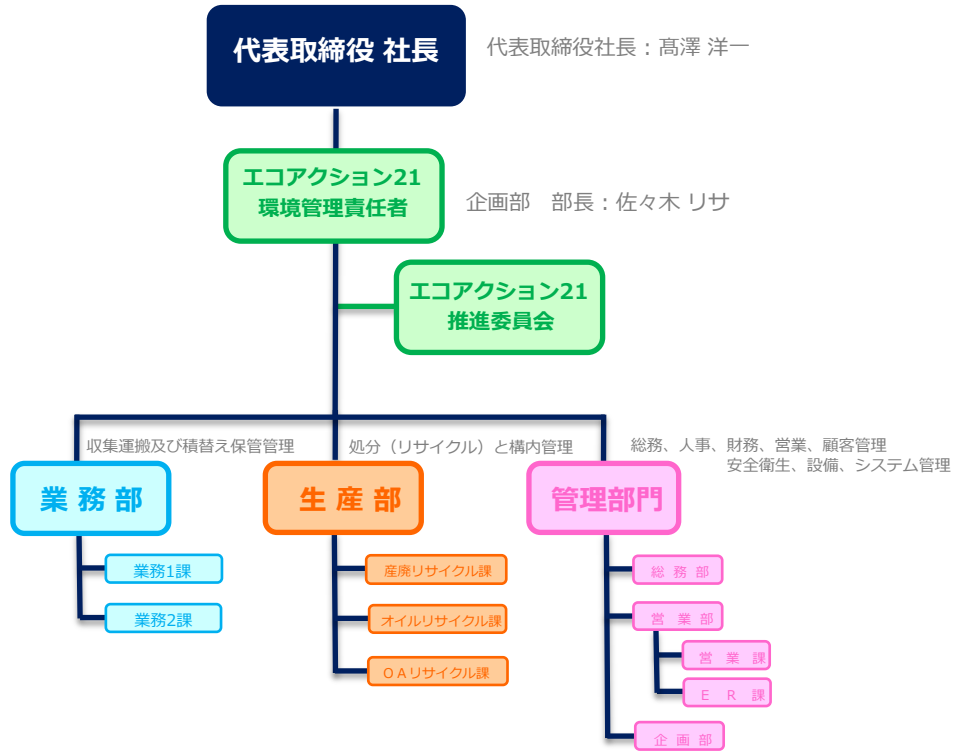


◆構内レイアウト図





10. 対象組織図




代表者	<ol style="list-style-type: none"> 1.環境方針の制定及び改定 2.環境管理責任者の任命 3.環境マネジメントシステム (以下、EMS)に必要な資源の決定と提供 4.全体の評価と見直しの実施 (指示)
環境管理責任者	<ol style="list-style-type: none"> 1.EMSの統括 2.エコアクション21推進委員会の委員任命 3.環境活動計画の推進と検証 4.組織に関わるステークホルダーへの情報発信及び回答 5.環境上の問題点の明確化と解決策の提案 6.全社に対するEMSの運用、進捗状況の報告
推進委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1.担当部署内のEMSの統括 2.目標及び活動計画の立案と推進 3.担当部署内のEMSの運用、進捗状況の報告
各部門	<ol style="list-style-type: none"> 1.環境方針の理解と環境目標達成の推進 2.環境活動への積極的参加 3.担当業務で生じた環境活動に関する事項の報告




2. 許認可 License

1. 収集運搬業

【産業廃棄物収集運搬業】

- 許可番号 北海道 第00110004747号  取得済
- 許可の年月日 平成26年（2014年）6月29日
- 許可の年月日有効年月日 平成33年（2021年）6月28日

【特別管理産業廃棄物収集運搬業】

- 許可番号 北海道 第00160004747号  取得済
- 許可の年月日 平成27年（2015年）7月29日
- 許可の年月日有効年月日 平成32年（2020年）6月28日

許可品目	産業廃棄物区分							
	産業廃棄物			特別管理産業廃棄物				
	許可	積保	石綿含有	特管	積保	有害	PCB	石綿
燃え殻	●	-	-	-	-	-	-	-
汚泥	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃油	●	●	-	●	●	● 11種類	◎	-
廃酸	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃アルカリ	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃プラスチック類	●	●	◎	-	-	-	◎	-
紙くず	●	-	-	-	-	-	-	-
木くず	●	-	-	-	-	-	-	-
繊維くず	●	-	-	-	-	-	-	-
動物性残さ	●	-	-	-	-	-	-	-
ゴムくず	●	-	-	-	-	-	-	-
金属くず	●	●	-	-	-	-	◎	-
ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず	●	●	◎	-	-	-	-	-
鉱さい	●	-	-	-	-	-	-	-
がれき屑	●	●	◎	-	-	-	-	-
動物のふん尿	●	-	-	-	-	-	-	-
動物の死体	●	-	-	-	-	-	-	-
ばいじん	●	-	-	-	-	-	-	-
(廃石綿等)	-	-	-	-	-	-	-	●

◎ → 低濃度ポリ塩化ビフェニル等、汚染物に限る

◎ → 石綿含有産業廃棄物を含むもの

【一般廃棄物収集運搬業】

- 許可番号 北広島市 北広環境指令第160号
- 許可の年月日 平成27年（2015年）12月8日
- 許可の年月日有効年月日 平成29年（2017年）12月9日
- 許可品目 家庭用廃パソコン、廃食用油、廃潤滑油



1-1. 収集運搬業 積み替え保管場所一覧

区分	No.	保管場所内容	面積 単位：㎡	保管上限 単位：㎡	高さ 単位：m
産業廃棄物収集運搬業	保管場所1	廃油	10.00	4.80	容器保管
	保管場所2	汚泥	47.00	40.40	容器保管
	保管場所3	金属くず	10.00	6.00	容器保管
	保管場所4	廃プラスチック類	100.00	83.30	2.50
	保管場所5	がれき類	20.00	3.20	容器保管
	保管場所6	廃プラスチック類、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず（廃OA機器、廃遊技機に限る）	86.00	126.00	屋内保管
	保管場所7	金属くず、汚泥、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず、廃プラスチック類 （水銀使用製品産業廃棄物であるものを含む）	25.00	8.40	屋内保管
	保管場所8	金属くず	48.58	75.78	2.90
	保管場所9	廃油	20.00	10.00	容器保管
	保管場所10	廃アルカリ	1.80	1.00	容器保管
	保管場所11	廃酸	1.80	1.00	容器保管
	保管場所12	廃プラスチック類、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず（廃OA機器、廃遊技機に限る）	75.00	124.00	屋内保管
	保管場所13	金属くず	40.00	39.00	容器保管
特別 収集運搬業 産業廃棄物	保管場所1	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	5.96	1.931	容器保管
	保管場所2	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	10.00	4.80	容器保管
	保管場所3	廃酸（pH2.0以下のもの（廃バッテリー））	1.21	1.00	屋内保管
	保管場所4	廃酸（特定有害産業廃棄物）	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所5	廃アルカリ（pH12.5以上のもの）	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所6	廃アルカリ（特定有害産業廃棄物）	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所7	汚泥（特定有害産業廃棄物）	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所8	廃酸（pH2.0以下のもの（廃バッテリー））	1.21	1.00	屋内保管



1-2. 許認可別車両一覧

車両形状	台数	最大積載重量 【単位：t】		許認可別収集運搬車両台数			
				普通	特管	PCB	一般貨物
キャブオーバー	10 台	4.70 ~	11.70	10 台	10 台	2 台	3 台
タンク車	10 台	3.00 ~	12.32	10 台	4 台	0 台	0 台
塵芥車	1 台	2.40 ~	2.40	1 台	0 台	0 台	0 台
バン	7 台	0.40 ~	4.90	7 台	7 台	3 台	2 台
ステーションワゴン	2 台	0.22 ~	0.22	2 台	2 台	0 台	0 台
TOTAL	30 台	-		30 台	23 台	5 台	5 台

※産業廃棄物収集運搬業の認可を受けていない【営業・管理車両10台】は除く

環境達成区分	キャブ オーバー	タンク車	塵芥車	バン	ステーショ ンワゴン	箱型 (乗用車)	TOTAL
平成22年度燃費基準10%向上達成車	台	台	台	台	1 台	台	1 台
平成22年度燃費基準15%向上達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
平成22年度燃費基準25%向上達成車	台	台	台	1 台	台	1 台	2 台
平成27年度燃費基準達成車	2 台	4 台	台	3 台	台	1 台	10 台
平成27年度燃費基準15%向上達成車	台	台	台	1 台	台	台	1 台
平成27年度燃費基準20%向上達成車	台	台	台	台	1 台	台	1 台
平成32年度燃費基準達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
平成32年度燃費基準10%向上達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
平成32年度燃費基準20%向上達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
TOTAL	2 台	4 台	0 台	5 台	2 台	6 台	19 台

全社所有台数40台中 低公害車導入率 47.5% (営業車・管理車両含む)





2. 廃棄物処分量

【産業廃棄物処分量】

- 許可番号 北海道 第00120004747号
- 許可の年月日 平成28年（2016年）9月7日
- 許可の年月日有効年月日 平成33年（2021年）6月28日



【特別管理産業廃棄物処分量】

- 許可番号 北海道 第00170004747号
- 許可の年月日 平成25年（2013年）11月27日
- 許可の年月日有効年月日 平成32年（2020年）10月24日



区分	No.	処理施設名	処理能力	
			1日あたり	1時間あたり
産業 廃棄物 処分量	1	汚泥、廃油の油水分離施設1	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	2	汚泥、廃油の油水分離施設2	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	3	汚泥、廃油の油水分離施設3	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	4	汚泥、廃油の油水分離施設4	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	5	汚泥、廃油、廃アルカリの沈降施設	9.984 m ³ /日 (8h)	1.248 m ³ /h
	6	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の切断分離施設1	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	7	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の切断分離施設2	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	8	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の切断分離施設3	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	9	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の切断分離施設4	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	10	廃プラスチック類の圧縮施設1	4.808 t/日 (8h)	0.601 t/h
	11	廃プラスチック類の圧縮施設2	4.808 t/日 (8h)	0.601 t/h
	12	固形燃料 (RPF)の製造施設	4.480 t/日 (8h)	0.560 t/h
	13	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くずの破碎施設1	プ 2.160 t/日 (8h) 金 3.760 t/日 (8h) カ 4.000 t/日 (8h)	0.270 t/h 0.470 t/h 0.500 t/h
	14	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くずの破碎施設2	プ 2.000 t/日 (8h) 金 4.200 t/日 (8h) カ 4.200 t/日 (8h)	0.250 t/h 0.525 t/h 0.525 t/h
	15	廃プラスチック類の破碎施設	2.400 t/日 (8h)	0.300 t/h
	16	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の圧縮分離施設	4.320 t/日 (16h)	0.270 t/h
特 管 処 分 業	1	汚泥、廃油の油水分離施設1	24.00 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	2	汚泥、廃油の油水分離施設2	24.00 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h

【一般廃棄物処分量】

- 許可番号 北広島市 北広環境指令第159号
- 許可の年月日 平成27年（2015年）12月8日
- 許可の年月日有効年月日 平成29年（2017年）12月9日
- 許可品目 家庭用廃パソコン、廃食用油、廃潤滑油



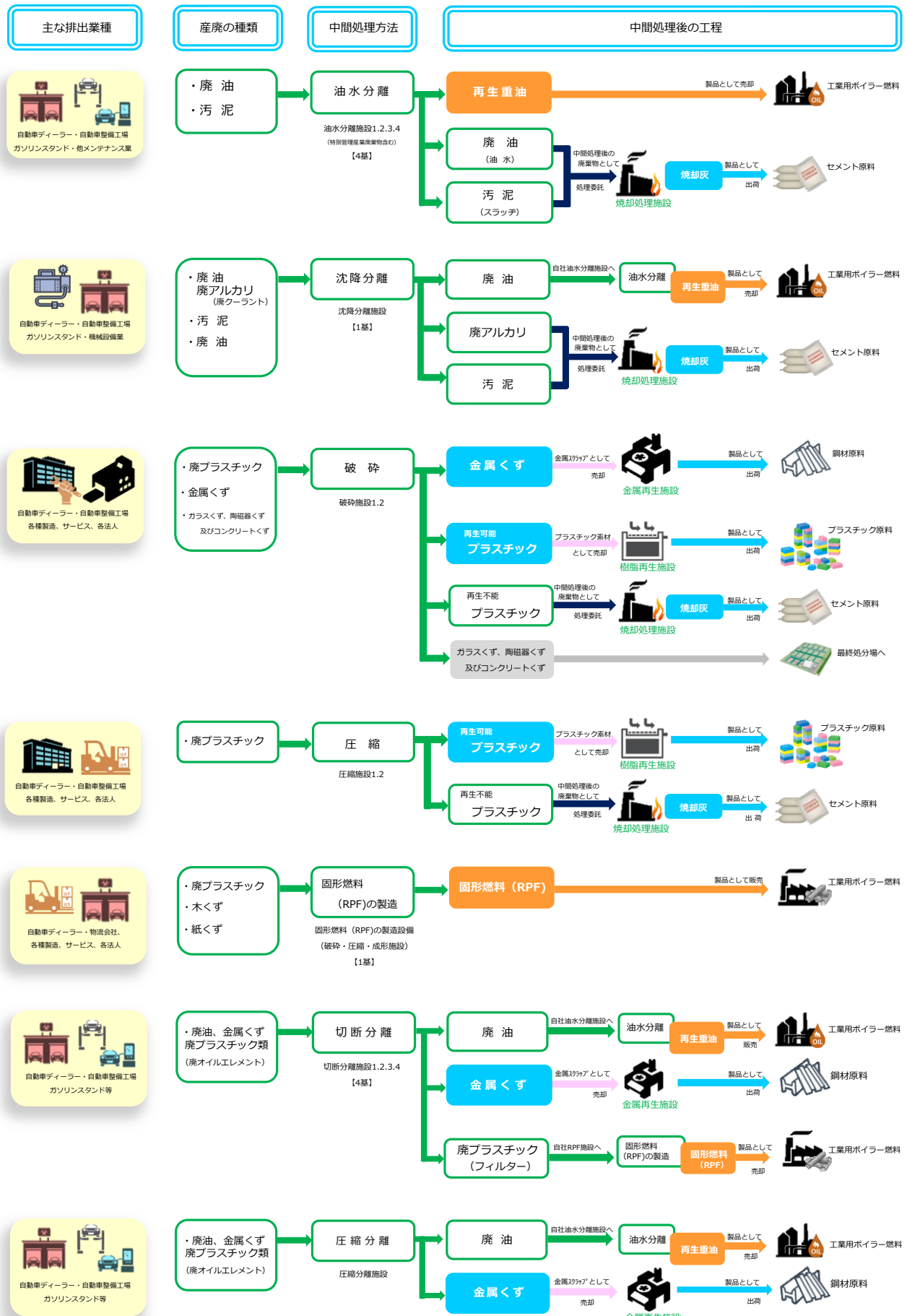
2-1. 産業廃棄物処分業保管場所一覧

区分	No.	保管場所内容	面積 単位：㎡	保管上限 単位：㎡	高さ 単位：m
産業廃棄物処分業	保管場所1	廃油	20.00	9.60	容器保管
	保管場所2	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	25.00	24.00	容器保管
	保管場所3	廃油	40.30	200.00	屋外タンク
	保管場所4	汚泥	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所5	廃油、廃アルカリ (廃クーラントに限る)	31.60	33.64	容器保管
	保管場所6	廃油	4.60	7.00	屋外タンク
	保管場所7	廃油	4.60	9.00	屋外タンク
	保管場所8	廃油	40.30	200.00	屋外タンク
	保管場所9	廃プラスチック類	40.00	56.00	容器保管
	保管場所10	廃プラスチック類	9.00	10.80	屋内保管
	保管場所11	廃プラスチック類	24.94	36.12	容器保管
	保管場所12	廃プラスチック類	39.44	63.24	容器保管
	保管場所13	廃プラスチック類	23.04	36.24	容器保管
	保管場所14	金属くず	33.50	41.87	容器保管
	保管場所15	ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず	25.52	36.08	容器保管
	保管場所16	紙くず	1.21	1.00	屋内保管
	保管場所17	紙くず	1.21	1.00	屋内保管
	保管場所18	木くず	24.00	12.73	0.86
	保管場所19	廃プラスチック類	8.00	2.80	0.70
	保管場所20	木くず	30.00	30.00	2.50
	保管場所21	廃プラスチック類	15.00	18.75	2.50
	保管場所22	廃プラスチック類	100.00	162.48	容器保管
	保管場所23	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	18.00	7.20	容器保管
	保管場所24	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	36.00	30.00	容器保管
	保管場所25	廃プラスチック類	45.00	56.00	容器保管
特別管理 産業廃棄物 処分業	保管場所1	廃油 (揮発油類、灯油類及び軽油類)	4.60	7.00	容器保管
	保管場所2	廃油 (揮発油類、灯油類及び軽油類)	40.30	200.00	屋外タンク



2-2. 産業廃棄物処分フロー図

→ 中間処理 → 当社中間処理後の処理委託 → 売却 → マテリアルリサイクル → サーマルリサイクル → 最終処分





2-3. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物収集運搬・処理の実績 (2017年度)

【単位：t】

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	2017年度実績	
収集運搬	産業廃棄物	燃え殻	0.1	
		汚泥	272.9	
		廃油	1,971.2	
		廃酸	4.4	
		廃アルカリ	11.4	
		廃プラスチック類	1,482.0	
		木くず	60.0	
		金属くず	2,084.0	
		ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	19.5	
		がれき類	16.3	
		【混合物】 廃油・金属くず	0.1	
		【混合物】 汚泥・金属くず	1.9	
		【混合物】 廃プラスチック・金属くず	154.8	
		【混合物】 廃プラスチック・金属くず・ガラスくず	257.2	
		【混合物】 廃油・廃アルカリ	290.4	
		【混合物】 金属くず・廃油・廃プラスチック	529.6	
	特別管理産業廃棄物	廃油	247.8	
		廃酸 (pH2.0以下)	0.2	
		廃アルカリ (pH12.5以上)	2.1	
		汚泥 (有害)	12.5	
		廃油 (有害)	0.3	
		廃酸 (有害)	0.1	
		廃アルカリ (有害)	0.2	
		強酸	0.0	
		廃ポリ塩化ビフェニル等 (PCB)	1.5	
		【混合物】 強酸・金属くず・廃プラスチック	9.2	
一廃	OA機器、廃油、廃食油	0.0		
収集運搬量合計			7,429.7	
中間処理	産業廃棄物	廃油	油水分離	2,092.8
			沈降分離	119.9
		廃油・廃アルカリ	沈降分離	341.7
		廃プラスチック類	圧縮	213.7
			固形燃料 (R P F) の製造	172.8
		金属くず	破 碎	748.8
		金属くず	破 碎	51.0
		ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	破 碎	18.1
		木くず	固形燃料 (R P F) の製造	67.1
	金属くず・廃油・廃プラスチック	切断分離	488.3	
圧縮分離		119.7		
一廃	OA機器、廃油、廃食油	圧縮分離	0.6	
うち再資源化等	廃油	再生重油製造	2,009.1	
	廃プラスチック類	固形燃料 (R P F) の製造	462.4	
	木くず	固形燃料 (R P F) の製造	67.1	
	廃プラスチック類	プラスチック原料	279.6	
	金属くず	製鋼原料	51.0	
	金属くず・廃油・廃プラスチック	製鋼原料	407.8	
		再生重油製造	151.9	
	固形燃料 (R P F) の製造	48.3		
再資源化量小計			3,477.2	
中間処理量合計			4,434.5	



3. 環境方針 *Environment Policy*

基本理念

Basic Principles

環境開発工業株式会社は廃棄物処理、リサイクルを主な事業としており、事業そのものの中で不適切な遂行は、直接重大な環境破壊や汚染を招く事を強く認識・自覚し、当社の最大能力を尽くして適正処理・環境負荷軽減を実行し、『より良い環境を次世代に継いで行く』事をモットーに社会貢献してまいります。

行動指針

Guidelines for action

- 1 環境理念を実現するため環境目標を設定し、環境負荷低減活動を実施します。
- 2 環境関連法及び当社が同意するその他の要求事項を確実に遵守します。
- 3 廃棄物排出量の抑制・埋立・焼却処分の最小化、さらに廃棄物のリサイクル化、再資源化を図り省資源・省エネルギー・CO₂削減、環境負荷の最小化に努めます。
- 4 環境方針、環境目的、環境目標は、必要に応じて改訂します。
- 5 環境方針は文書化し、全従業員に周知するとともに、関係お取引先を含め一般に公開します。

2017年5月25日 制定

環境開発工業株式会社

代表取締役社長

高澤洋一 



4. 環境活動計画 *Environmental activity plan*

1 二酸化炭素排出量 (Co2) の削減

- ◆ 産業廃棄物収集運搬車輻におけるエコドライブの促進と燃費向上に努める
- ◆ 製造・処理施設及び事務所等構内各所における電気及び化石燃料使用の低減
- ◆ 水を扱うすべての構内において節水を意識し、使用量を削減する

2 資源循環の向上と埋立量削減促進

- ◆ 再生資源化品の生産量向上に努め、循環型社会形成に貢献する
 - ① 廃油の再生重油化
 - ② 廃プラスチック類のRPF (固形燃料) 化
 - ③ 廃プラスチックの素材化
 - ④ 鉄、非鉄スクラップの素材化
- ◆ 中間処分品目の分別及び選別の徹底により、埋立廃棄物の削減を図る

3 環境配慮製品の利用推進と導入

- ◆ 地球環境に配慮したバイオ製剤の利用
- ◆ 環境負荷低減に配慮したグリーン購入品の促進
- ◆ 車両入替時による大気汚染物質の排出が少ない低公害車導入の配慮

4 次世代に繋がる環境貢献活動の推進

- ◆ 取引顧客に対するリサイクル活動の啓蒙及びリサイクルデータの提供推進
- ◆ 「森とアースへのエコプロジェクト」の賛同による森林維持及び保全活動の支援



5. 環境目標・実績 *Environment target&Performance*

5-1 2017年度目標及び取組み結果（取組み初年度）

環境目標項目	単位	主幹部門	基準値 2016年6月～8月 3ヶ月間平均	目標値		目標値 2017年度	実績 2017年6月～9月 4ヶ月間平均	目標比	評価		
				基準値比	達成手段						
化石燃料 使用量	ガソリン	ℓ/月ave.	管理部門	2,051.9	0.2% 削減	アイドリング時間の削減	2,010.00	1,736.60	-273.40	○	
	軽油	ℓ/月ave.	業務部	19,269.6	0.2% 削減	急加速・急ブレーキの抑制	18,880.00	19,037.60	157.60	×	
	灯油	ℓ/月ave.	生産部 管理部門	1,460.0	現状維持	ウォームピズの推進	1,460.00	280.30	-1,179.70	○	
	重油	ℓ/月ave.	オイルリサイクル課	4,600.0	20.0% 増	ボイラの仕様変更により 重油に切替えた為、 今期要観察	5,520.00	7,000.00	1,480.00	×	
	LPG	kg/月ave.	オイルリサイクル課	6.6	現状維持	ボイラ使用時の着火源の 為、現状維持	6.60	5.00	-1.60	○	
電力使用量	工場・施設	kwh/月ave.	生産部 管理部門	28,062.0	5.0% 増	第3工場新設に伴い、 今期要観察	29,465.00	27,485.00	-1,980.00	○	
廃油使用量	工場・施設	ℓ/月ave.	オイルリサイクル課	1,500.0	機械の仕様変更により A重油に切替	機械の仕様変更により A重油に切替	0.00	0.00	0.00	○	
二酸化炭素排出量		kg-Co ² /年	321,968.0（3か月TOTAL） 90,230.0（月平均）		5.0% 削減		92,541.00	92,060.00	-481.00	○	
収集運搬車輛 燃費向上	km/年	業務部	3.6	3.0% 向上	急加速・急ブレーキの抑制	3.70	3.68	-0.02	○		
水の使用量削減	m ³ /月ave.	生産部 管理部門	95.5	10.0% 削減	RPF燃料製造時の冷却を スプリンクラー仕様に変更	85.90	94.80	8.90	×		
再生資源製造 出荷量	再生重油	kℓ/年	オイルリサイクル課	938.0	現状維持	廃油収集量前年同等で あるため、要観察	938.00	848.00	-90.00	×	
	RPF(固形燃料)	t/月ave.	産廃リサイクル課 OAリサイクル課	38.2	15.0% 向上	原料分別強化	43.90	45.00	1.10	○	
	プラスチック	t/月ave.		19.8	5.0% 向上	原料分別強化	20.70	19.60	-1.10	×	
	非鉄・金属	t/月ave.		244.4	15.0% 向上	分別エリア変更に伴い 手法向上	281.00	242.20	-38.80	×	
中間処理後の埋立量削減	%/月ave.	産廃リサイクル課	4.0	3.0% 削減	分別強化により、RPF 原料ヘシフト	3.80	4.30	0.50	○		
環境配慮製品 の購入	環境配慮製品促進	バイオ製剤販売促進	本/月ave.	ER課	8.0	10.0% 向上	原因者に対する浄化処 理方法へ提案、促進	9.00	16.80	7.80	○
	グリーン購入（環境配慮製品含む）	種/年	総務部	3.0	2種 増量	購入時に優先検討	5.00	2.50	-2.50	×	
	低公害車導入	所有車輛入替時による 導入促進	件/年	業務部 管理部門	0.0	1車入替検討	車両入替時に検討	1.00	0.00	-1.00	×
環境・社会 貢献	森林維持 保全活動	森とアースへのエコ プロジェクト支援	回/年	企画部	1.0	現状維持	オイルリサイクル組合 との共同参加支援	1.00	1.00	0.00	○
	環境美化維持	構内外の清掃活動	回/年	安全衛生・設備保全課	1.0	6回 実施	2か月に1度全社員実施	6.00	0.70	-5.30	×
	取引顧客のリサイクル 活動の支援促進	取引顧客に対するリサイ クルデータ配布数	件/月ave.	営業部	45.0	5.0% 向上	分別指導の促進による リサイクル値向上支援	47.00	31.00	-16.00	×

※電力算出係数 北海道電力2015年度0.699t-CO₂/kwhを使用



5-2 年度別環境目標（中期3か年）

環境目標項目		単位	主幹部門	初年度目標	中期目標値			
				2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
二酸化炭素排出量削減	化石燃料使用量	ガソリン	ℓ/月ave.	管理部門	2,010.0	1,969.8	1,930.4	1,891.8
		軽油	ℓ/月ave.	業務部	18,880.0	18,502.4	18,132.4	17,769.7
		灯油	ℓ/月ave.	生産部 管理部門	1,460.0	1,430.8	1,402.2	1,374.1
		重油	ℓ/月ave.	オイルリサイクル課	5,520.0	5,500.0	5,390.0	5,282.2
		LPG	kg/月ave.	オイルリサイクル課	6.6	5.0	5.0	5.0
	電力使用量	工場・施設	kwh/月ave.	生産部 管理部門	29,465.0	28,875.7	28,298.2	27,732.2
	廃油使用量	工場・施設	ℓ/月ave.	オイルリサイクル課	0.0	0.0	0.0	0.0
	二酸化炭素排出量		kg-Co ² /年		92,541.0	90,690.2	88,876.4	87,098.8
	収集運搬車輛 燃費向上		km/年	業務部	3.7	3.8	3.9	4.0
	水の使用量削減		m ³ /月ave.	生産部 管理部門	85.9	84.2	82.5	80.8
資源循環・埋立削減	再生資源製造出荷量	再生重油	kℓ/年	オイルリサイクル課	938.0	940.0	940.0	940.0
		RPF(固形燃料)	t/月ave.		43.9	50.0	50.0	55.0
		プラスチック	t/月ave.	産廃リサイクル課 OAリサイクル課	20.7	5.0	5.0	5.0
		非鉄・金属	t/月ave.		281.0	285.0	290.0	300.0
	中間処理後の埋立量削減		%/月ave.	産廃リサイクル課	3.8	3.0	2.5	2.0
環境配慮製品の購入	環境配慮製品促進	バイオ製剤販売促進	本/月ave.	ER課	9.0	10.0	15.0	20.0
	グリーン購入（環境配慮製品含む）		種/年	総務部	5.0	7.0	8.0	10.0
	低公害車導入	所有車輛入替時による導入促進	件/年	業務部 管理部門	1.0	1.0	1.0	1.0
環境・社会貢献	森林維持保全活動	森とアースへのエコプロジェクト支援	回/年	企画部	1.0	1.0	1.0	1.0
	環境美化維持	構内外の清掃活動	回/年	安全衛生・設備保全課	6.0	6.0	8.0	12.0
	取引顧客のリサイクル活動の支援促進	取引顧客に対するリサイクルデータ配布数	件/月ave.	営業部	47.0	50.0	50.0	50.0

※電力算出係数 北海道電力2015年度0.699t-CO₂/Kwhを使用

6. 環境活動結果とその評価、次年度の取組み内容

Results of environmental activities and their evaluation, efforts in the next fiscal year

本年6月から本格的に本プログラムの運用を開始しましたが、4か月間の運用実績の結果、まだまだ見直し、改善の必要があります。今後も四半期毎に経過を観察し、タイムリーに見直しを図りたいと思います。

二酸化炭素排出量削減

目標値比：▲481kg-Co2

二酸化炭素排出量削減については、目標比▲481kg-Co2を下回ることが出来、これらは化石燃料の使用量を抑えられた結果である。

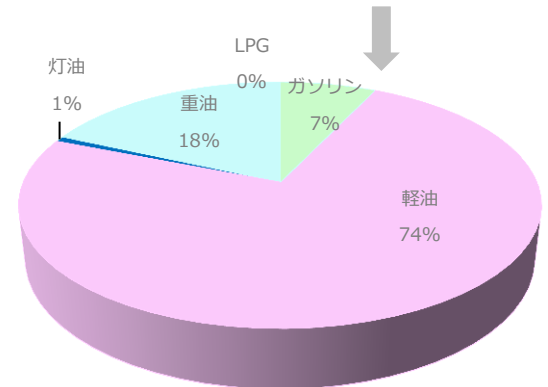
特に、ガソリンや軽油の使用量は、エコドライブを改めて意識し始めた効果であったと思われる。

これから燃費が低下していく厳冬期に入るが、より一層エコドライブを意識していく。また、灯油についても同様、厳冬期の使用量が多くなり、加えて本年3月より稼働し始めた「第3工場」での灯油使用が本格化するため、防寒着の見直し、暖房の設置場所も配慮し灯油使用量の削減に努めたい。

また、電気使用量についても冬期間により変動があるため、無駄な電気のOFFと設備の効率運転を心がけ、節電に努めたい。

◇A重油の使用量については、本年6月より本格使用となるため、経過観察を実施する。

※当社の化石燃料使用構成比（2017年6月～9月）



資源循環・埋立削減

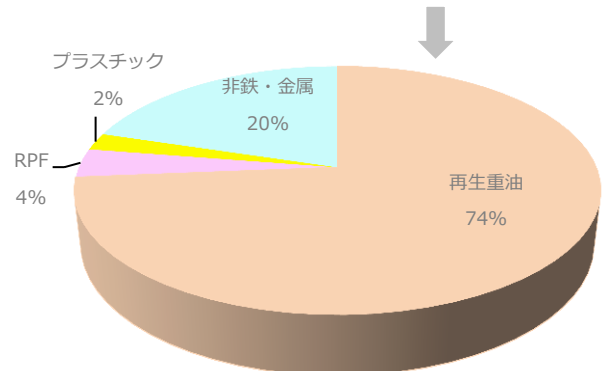
当社の中核である「再生重油」の製造については、目標値より下回っているものの、1年比較をした場合、概ね予想通りである。

非鉄、金属については相場に応じて出荷をしているため、こちらも1年後の経過観察としたい。

尚、RPFの製造量は若干ではあるが上回り、これらは「埋立削減」の効果が見られた結果となった。

こちらは、いかにRPFまたは素材に戻るかを意識しながら処理業務を行っていきたい。

※当社の再生資源製造構成比（2017年6月～9月）



環境配慮・貢献活動

グリーン購入、低公害車の導入は目標値を下回っているが、新年度に向けて積極的に購入、導入を実施する。

また、森林維持活動における「森とアースへのエコプロジェクト」の支援については、引き続き本年も支援し日本の森づくりと地球温暖化防止に貢献していきます。



※環境活動結果の数値実績は、5. 環境目標・実績を参照願います。



その他初年度の取組み

■節電、節水、エコドライブを促すステッカーの作成と掲示



■場内で廃油等の漏洩が生じた場合、迅速に処置できるよう「緊急対策資材BOX」を場内各所に設置



【BOX内常備品】 吸着マット、ウエス、軍手、ゴム手、油とりクリーナー、オイルスポンジ

■社員全員で定期的に構内、構外のゴミ拾いを実施



■森とアースへのecoプロジェクトへの参加（本年度3回目の参加）

森とアースへのecoプロジェクト

お客様 → 森とアースへのECO-プロジェクト推進チーム → 北海道環境財団 (プロジェクト事務局) → 全国の自治体 → 植林・園芸・下刈りなど地域の美観に応じた森づくり

お客様からの賛同に応じて寄付

全国の自治体からの賛同に応じて寄付

北海道環境財団 (プロジェクト事務局) が連携して

廃油リサイクル企業 (寄付) - お客様 (賛同) - 自治体 (森づくり)

日本の森づくりと地球温暖化防止に貢献

北海道 下川町 (2回)、北海道 石狩市 北海道 津別町、北海道 上士幌町、北海道 南富良野町、岐阜県 御嵩町、岡山県 西粟倉村、高知県 梶原町、熊本県 小国町

計9か所の森づくり支援

2017年度は当社単独で1回、全国オイルリサイクル協同組合として1回参加をしました。

尚、全国オイルリサイクル協同組合として参加した回より、「Jクレジット」として50 t -Co2を取得しました。



7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 Compliance

7-1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果

法律・条令	遵守事項	遵守評価
廃棄物処理法	委託契約書の締結	◎ 全顧客契約締結及び原本5年間保管
	マニフェスト伝票の管理	◎ 原本5年間保管
	処分保管量の遵守	◎ 適正保管量、期間の遵守
	積替え保管量の遵守	◎ 適正保管量、期間の遵守
	運搬車の表示と許可証写、マニフェスト携帯	◎ 全許可車両遵守
	収集運搬業内容の変更	◎ 2017.1 積替え保管場所の変更手続き
	処分業内容の変更	◎ 2017.1 処分保管場所の変更手続き
	処理施設内容の変更	◎ 2017.8 保管場所の変更手続き
	産業廃棄物処理施設実績	◎ 2017.6 北海道へ報告
	産業廃棄物処理実績	◎ 2017.6 北海道へ報告
	産業廃棄物管理票交付等状況	◎ 2017.6 北海道へ報告
	産業廃棄物収集運搬実績	◎ 2017.6 札幌市へ報告
大気汚染防止法	炉筒煙管ボイラ 煤塵、Sox、Nox 3項目の2回以上/年の測定	2017.1 Nox基準値180volppmに対し、 ▲ 250volppmとなり、是正処置を行った。 (詳細「7-2.違反・訴訟の有無」参照)
	水管ボイラ 煤塵、Sox、Nox 3項目の2回以上/年の測定	◎ 基準値内
フロン排出抑制法	事務所内業務用エアコンの 定期点検 (4回/年)	◎ 2017.8 定期点検実施
海洋汚染海上災害防止法	事業実績報告	◎ 2016.10 北海道運輸局へ報告
家電リサイクル法	リサイクル券の発行	◎ 今期は家電廃棄なし
自動車リサイクル法	リサイクル券の発行	◎ 今期は自動車入替なし
消防法	危険物施設、設備 全社構内	◎ 2017.08 北広島消防本部による危険物 施設、設備の年次検査及び全構内の消火 設備点検実施済
北海道公害防止条例	騒音・振動発生施設 コンプレッサー：2基 遠心分離機：2基	◎ 2017.09 コンプレッサー入替による 騒音・振動発生施設設置届提出



7-2. 違反・訴訟の有無

当社の関連する法規制のうち、大気汚染防止法の特定施設となっている「炉筒煙管ボイラー」のばい煙測定結果がNox基準値を超過し、2017年1月、石狩振興局の立入検査において「改善指導」を受けました。

これを受け、当社並びに設備メーカー協力のもと、原因と思われるバーナー部の分解整備とヒーター清掃を実施し、Nox値は基準内となりました。

但し、燃焼負荷率を上げることでNoxが基準値をオーバーする場合があります、万全を期すため「炉筒煙管ボイラー」で使用している燃料を「廃油」から「A重油」に切替え、また、A重油仕様のバーナーに2018年内に改修工事を実施することに致しました。

以上の改善報告書は同年6月、石狩振興局へ提出をし、受理されております。

尚、本件に関しては違反行為並びに行政処分の対象外であり、それ以外の法遵守事項の逸脱、訴訟などありません。

8.代表者による評価 *President evaluation*

当社では、1999年よりISO14001の取得並びに維持、継続し、2014年には「優良産廃処理業者認定制度」におけるの収集運搬業、処分業ともに「優良認定業者」も取得しました。

そして、このたびISO14001の規格改定を機に「エコアクション21」への変更を検討したところ、当社の理念や活動にマッチングしており、かつ、社員一人一人が日々の業務と連動して取り組めるプログラムとなっているため、「エコアクション21」への変更を行いました。

今回、「エコアクション21」の初認証を目指すにあたり、個々人日頃の実務に密着した改善が出来ることを改めて実感をしております。

特に、「車両の燃費向上」はブレーキやアクセルの踏み方ひとつで目に見えて燃費が向上し、ガソリン使用量の削減＝経費削減に大きく貢献しています。

また、私たちの事業である中間処理業においては、「いかに再資源するか」を念頭に置くことで、最終処分量削減となり、わが社のモットーである「より良い環境を次世代に継いでいくこと」が実現できます。

「エコアクション21」の取組みを開始したことにより今まで見えていなかった、見ていなかった部分を改めて見直す良い機会にもなり、特にCo2排出量については意識が希薄であったことにも気づかされました。

本活動を始めて数ヶ月のため、設定した目標が達成出来るか不透明な部分もありますが、日々の活動を通じ、中長期的な環境活動計画の遂行、そして何より排出事業者であるお客様やステークスホルダーの皆様から安心、信頼いただけるよう社員一丸となって取り組んでまいります。

環境開発工業株式会社

代表取締役社長

高澤 洋一



※環境目標、計画等の活動については、来年度に改めて具体的評価を実施します。